

災害公衆衛生の実践とエビデンスの構築

災害公衆衛生学は、災害発生時における人々の健康への影響を最小限にとどめるための実践活動および研究を対象としています。「災害で命を落とさないこと」「災害後も健康的な生活を送ること」を実現するために、科学的知見に基づいた方策を考案し、社会実装を通じて社会へ貢献を目的としています。

今回のセミナーでは、東日本大震災以降に取り組んだ「災害後の自殺死亡の実態把握」と「災害後の保健活動に資するエビデンスの構築」といったテーマに焦点を当て、実践例と課題、さらに有効と考えられる取り組み（グッドプラクティス）について報告します。

さらに、「災害による直接死を減少させるための実態把握と社会的介入」として、「家屋の耐震化」「家具・家電の転倒防止」「感震ブレーカーの設置」「自主的かつ迅速な避難行動」など、住民一人ひとりが「命を守る行動」をとりやすくなるような社会環境の整備に向けた取り組みを紹介いたします。



東北大学災害科学国際研究所 災害医学研究
部門 災害公衆衛生学分野
東北大学東北メディカル・メガバンク機構
予防医学・疫学部門（兼務）

大類 真嗣 先生

山形県生まれ。2001年山形大学医学部卒業。博士（医学）。社会医学系専門医・指導医。山形県・仙台市で公衆衛生医師として勤務、2016年福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座、2023年東北大学東北メディカル・メガバンク機構を経て、2024年8月から現職。

2025年9月25日（木）

16:30~17:30

WEB 開催

（ZOOM）

本セミナーは医学系研究科系統講義コース科目等の授業として振替可能です

お申し込み・お問い合わせ

東北大学災害科学国際研究所
「災害と健康」プロジェクトユニット

<https://forms.gle/g8bT9SaebVVkbvmQ7>

